

# 經濟論叢

第101卷 第1号

佐波宣平教授記念號

---

献 辞	出口 勇 藏	
組織論史におけるバーナード理論の意義	山本 安次郎	1
スミス経済学における巨視的モデル	青山 秀 夫	22
マクロ経済学の論理と政策的指向性	島津 亮 二	35
資産選択の理論	鎌倉 昇	53
ロ イ ズ	谷山 新 良	62
巨視的計量モデルにおける乗数	森口 親 司	81
Activity Analysis と立地モデル	小林 清 晃	94
地域経済の構造分析	井原 健 雄	111
輸送投入と産業連関分析	山田 浩 之	131

佐波宣平 教授 略歴・著作目録

---

昭和43年1月

京都大學經濟學會

## 佐波宣平 教授 略歴

- 明治38年(1905) 1月16日 山口県都濃郡末武北村字花岡に生まれる。姓は「岩瀬」
- 大正6年(1917) 3月 花岡小学校尋常科を卒業
- 大正8年(1919) 3月 同校高等科(2年)を卒業
- 3月 徳山海軍煉炭所に製図職工見習として勤務(大正10年3月まで)
- 大正10年(1921) 4月 山口県立下松工業学校(機械科)へ入学
- 大正12年(1923) 3月 同校第2学年修了後、中途退学
- 4月 私立鴻城中学校(山口県山口町)第4学年に編入学
- 大正13年(1924) 3月 同校第4学年修了
- 4月 山口高等学校(文科甲類)へ入学
- 5月 佐波へ入家
- 昭和2年(1927) 3月 山口高等学校を卒業
- 4月 京都帝国大学経済学部へ入学
- 昭和5年(1930) 3月 同学士試験合格
- 4月 京都帝国大学大学院に入学、小島昌太郎教授の指導をうける(昭和9年3月 同大学院退学まで)
- 9月 京都帝国大学経済学部副手(昭和9年3月まで)
- 昭和6年(1931) 1月 「経営と経済」(京都帝国大学内京都経営学会、小島昌太郎博士監修)の編輯にあたる(約2年間)
- 9月 立命館大学商学部へ非常勤講師として出講(交通論、海運論、保険論、火災保険論、貿易実践などの講義を行う、昭和17年まで)
- 昭和9年(1934) 3月 京都帝国大学経済学部専任講師
- 昭和10年(1935) 3月 高崎八重子と結婚
- 昭和13年(1938) 3月 京都帝国大学助教授(経済学部)、外国経済書講読の講義を担当
- 昭和14年(1939) 4月 保険論の講義を担当
- 昭和15年(1940) 2月 満州国および中華民国へ出張(同年3月まで)
- 6月 辰馬海事記念財団創立、評議員となる
- 昭和19年(1944) 2月 学術研究会議第707研究班員

- 昭和19年(1944) 4月 交通論の講義を担当  
8月 臨時召集(呉海兵団)をうけるが、3日後に解除
- 昭和21年(1946) 7月 京都帝国大学教授(経済学部), 経済学第5講座を担当
- 昭和24年(1949) 2月 京都大学評議員(昭和26年2月まで)
- 昭和25年(1950) 4月 兵庫県立神戸商科大学教授を兼任(昭和32年6月まで)  
9月 学術奨励審議会(学術用語分科審議会)専門委員(昭和39年6月まで)
- 11月 日本保険学会理事に就任
- 11月 京都大学より経済学博士(経第35号)の学位授与
- 昭和26年(1951) 3月 京都大学防火委員会委員(昭和26年11月まで)  
7月 心筋梗塞の最初の発作(海事法学会(神戸)出席中)
- 昭和28年(1953) 4月 京都大学大学院経済学研究科学生指導(昭和38年4月まで)  
11月 交通文化賞(第1回)を受く
- 昭和34年(1959)11月 日本交通学会理事に就任
- 昭和36年(1961)10月 胃潰瘍による出血をみる(日本保険学会(香川大学)出席中)
- 昭和38年(1963) 4月 京都大学大学院経済研究科担当(昭和42年度まで)  
7月 北海道大学経済学部講師(非常勤)に併任(保険論, 同年7月30日まで)
- 11月 網膜剥離の手術をうける
- 昭和39年(1964) 6月 学術奨励審議会専門委員(昭和41年6月まで)
- 昭和40年(1965) 4月 山口大学経済学部講師(非常勤)に併任(保険論, 同年10月まで)
- 8月 胃痛手術をうける
- 昭和41年(1966) 4月 数理経済学の講義を担当(昭和41, 42年度)  
8月 肝臓癌手術をうける  
10月 日本海運経済学会創立, 副会長に就任
- 昭和42年(1967) 7月 再び肝臓癌手術をうける  
12月6日 退官記念講義を行う